

特色ある学校

総合技術科への挑戦



藤沢工科高校の校章
工科の「工」の字を円の構成で
全体的に表現し、円は総合的、
地球環境への優しさ等を示す。
分割されている構図は、6つの
系がお互いに共存していること
を表しています。

神奈川県立藤沢工科高等学校
新校準備委員会・
開校準備組織委員 宍戸健一

1. はじめに

本校は、神奈川県立高校改革推進計画に基づき、これからの工業分野で総合的な視野をもって活躍する人材の育成を目的に藤沢工業高等学校と大船工業技術高等学校が再編・統合され、今年4月に、前身の藤沢工業高等学校の敷地を利用し、開校した。

今年度は、1学年に総合技術科、2・3学年には建設科、電気科、機械科が設置されている。

前身の大船工業技術高校と藤沢工業高校の設置学科と定員

	大船工業技術	藤沢工業
建設科		3クラス(117名)
電気科	1クラス(39名)	1クラス(39名)
機械科	2クラス(78名)	2クラス(78名)

藤沢工科高校の設置学科と定員

総合技術科	6クラス(234名)
-------	------------

2. 藤沢工科高校の基本構想

(1) 再編対象・設置場所・設置年度

①再編対象校

大船工業技術高校及び藤沢工業高校

②設置場所

藤沢工業高等学校敷地（藤沢市今田744）

③設置年度 平成15年度

(2) 設置の目的

○高齢化・国際化・情報化の進展や科学技術の高度化、地球環境問題への視点の必要性といった社会変化に応じた工業教育を展開し、専門分野を深めたり進学して継続的に学習するなど、これからの工業分野で総合的な視野をもって活躍する人材の育成を目指す。

(3) 基本コンセプト

○幅広い視野を持つ工業人の育成と工業分野の基礎

・基本科目の学習によって自己の興味・関心や特性を見出したり確認したりしたうえで、適性や進路希望に応じて、機械系・電子系・電気系・建築系・環境システム系・都市工学系などの専門的な系を選択し学習を深めることができる教育を展開する。

○多様な進路希望目的に応じた教育内容

藤沢工業高校の社会の変化に応じた幅広い教育、大船工業技術高校の科学技術の進展に応じた工業教育の展開を生かし、工業技術を幅広く学習するとともに、専門分野を深めたり、進学して継続的に学習するような学習を展開する。

(4) 設置形態

①課程 全日制の課程

②学科 総合技術科

③学校規模 全日制の課程 720名
(18学級規模)

④修業年限 3年

⑤学期(案) 2学期制

⑥履修形態

1年次に、普通科目及び工業の基礎科目を共通履修し、2年次から、各自の進路希望や特性、興味・関心に基づき、系に分かれ学習を深める。

⑦授業展開

50分6限を基本とし、必要に応じて、弾力的な授業展開時間を設定する。

(5) 入学者選抜

①募集区分 一般募集

(中学校卒業見込み者及び中学校既卒業者)

②選抜の区分・推薦に基づく選抜

・学力検査等に基づく選抜

③通学区域 全県を通学区域とする。

(6) 教育課程

①基本的方針

○高等学校在籍3年以上、必修修科目を履修し、高等学校学習指導要領に定められた卒業に要する単位(74単位)を修得することができる。

○専門教育に関する各教科・科目の履修については、25単位を下らないこととする。

○工業の基礎・基本を学んだ上で、いくつかの分野において、より専門的な内容が深められるよう系を設置するとともに、進学を目指す生徒にも対応できるよう多彩な選択科目を設置する。

○教育課程の弾力的運用を図る。

(例) ・単位制の積極的な活用

・諸制度の活用による単位認定や短期に実施する集中講座を設置

○柔軟な受け入れ体制の確立を図る

○学校間連携についての検討

②教育課程の編成方針

○系の設置

工業の基礎・基本を学ぶ共通科目を学んだ上で、自己の適性に応じた学習を展開することができるよう多彩な系を設置し、いずれかの系に所属することで専門性を深められるようにする。

○科目等の構成

・必修修科目、学習のまとめりとして系の科目、自由選択科目(普通教科・科目の充実及び生徒の特性に応じた教養・発展科目)で構成する。

・一人ひとりの興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図るため総合的な学習の時間(課題研究)を設定する。

〈設置する系〉(例)

原則として次の6系を設置する。

・機械系	・電子系	・電気系
・建築系	・環境システム系	・都市工学系

〈設置する科目〉(例)

必修修科目 新学習指導要領に示されている科目

専門分野に関する科目

共通必修修科目、系の科目

自由選択科目

普通科目に関する標準的な科目

生徒の特性に応じた科目

・総合的な学習の時間

○教育課程の弾力化

・単位制を活用した弾力的な運用

・集中講義、技能審査や計画に基づいた体験活動による単位認定を実施

③学習指導の工夫等

小集団学習やゼミナール形式の学習を充実させるとともに、各自の学習内容に基づいた個別の指導が実施できるよう配慮する。

④生徒指導の工夫等

一人ひとりの生徒の学習計画や生活面での指導にあたるため、教育相談(カウンセ

リング・ガイダンス)を充実させるとともに、個別の進路指導の充実を図る。

⑤授業展開の工夫等

小集団活動や習熟度別学習を進めるとともに特色ある教育内容を選択して学ぶことが可能となるよう配慮する。

⑥教育課程編成

(7)教育課程編成による施設設備整備

(8)教職員組織及び運営

3. 開校までの歩み

(1)新校準備委員会

平成11年11月に県立高校改革推進計画が発表されたのを受け、教育委員会と再編対象校から委員が選出され、基本構想をもとに具体的な検討を重ね、新校設置計画を平成13年10月に発表した。

(2)開校準備組織

開校前年度の、平成14年4月に藤沢工業高校内に設置され、施設改修・広報活動・入試選抜・教育課程などさまざまな項目について検討し、精力的に準備を進めた。

4. 藤沢工科高校の概要

(1)教育目的

人と環境に優しい「ものづくり」の精神を培い、総合的な視野をもった活力ある人材の育成を目的とする。

(2)教育目標

新しい 時代を拓く 人づくり ・心豊かな人の育成 ・創造性豊かな人の育成 ・社会に貢献できる人の育成

(3)教育方針

- ものづくりを通して工業の意義や役割を理解させる。
- 主体性と協調性を兼ね備えた人間を育成

する。

- 専門性の深化や進学に対応した教育を実践する。
- 総合的な視野を持ち、エネルギー・環境問題など社会の変化に対応できる人間を育成する。
- 地域社会とのふれあいを大切にし、地域との共生を目指した教育を実践する。

(4)教育の特色

- 一人ひとりの適性や進路希望に応じた専門的な系を選択することができる。
- ものづくりの視点を重視し、創意工夫を生かす実践的な技術者を育成する。
- 多様な進路希望や学習目的に応じ、専門分野を深めることや、進学して継続的に学ぶことができる。

(5)総合技術科について

現代の高度で複合化した工業技術に応えるために、設けられた新しい学科である。

①一括募集

○1年次

全員が同じ基礎科目を学ぶとともに、総合ガイダンスや工業技術基礎では、2年次以降の「系」の選択や将来の目標を考えるための学習をする。

○2・3年次

自己の適性や目的に応じた“系”を選択し、専門性を深めることができる。また、共通自由選択科目では、一人ひとりの進路希望に応じた幅広い学習をすることもできる。

②6系を設置

生産技術・情報通信・建築・都市土木・住環境・総合デザイン

③1科6系の履修体系

6系混成のみックスホームルームを編成するので、系に閉じこもらずに、幅広い友人関係をつくるのが可能である。

④2・3年次の共通自由選択科目を24単位（各学年12単位）設定

○生徒一人ひとりの進路にあった科目選択による、カリキュラム編成の多様化。

○大学への進学、専門学校への進学に対応。

○企業等への就職に対応。

⑤3年次における「課題研究」6単位の設定。

⑥2学期制の導入

5. 今後の課題

(1) 施設面の課題

①耐震補強工事（平成15～16年度）への対応

②平成15年度における、旧大船工業技術高校からの備品の移設

・備品の移設計画の検討

③授業での施設利用計画の検討

○特に、平成16年度からの共通自由選択科目における利用計画

○新校入学生と2・3年生の教育課程の違いによる問題

・施設利用の調整 ・時間割の作成

(2) 新校職員の課題

①職員のスキルアップ

総合技術科では、専門以外に、幅広い学習活動に取り組む必要がある。そのため、校内における研修会や研究授業が必須となる。また、同時に、専門深化に対する取り組みも重要である。

②進路支援の推進

進路指導を体系化して、進学・就職指導やガイダンス指導を計画的に行う。

○就職 企業等の要望を把握し、必要な資質と基礎学力を習得させる指導体制

を充実させる。

○進学 推薦だけでなく、一般入試で大学に進学できるような力量が身に付くように、進学指導体制を充実させる。

③PR活動の推進

○中学校等への対応

・学校説明会の実施・出前説明会の実施
・中学校訪問の実施

○企業等への対応

・インターンシップによる連携強化
・企業との教育懇談会の実施
・課題研究等での協力体制づくり

○大学等への対応

・学校訪問により、新校への理解を図る。
・連携授業などで相互理解を深める。
・課題研究等の協力体制づくり

○地域への対応

・地域交流会等での地域社会との連携を推進する。

④学習指導や生徒指導体制の強化

○従来の学科の壁を取り払い、教員の意識改革を図り、共通認識をもって生徒と向き合う姿勢を確立する。

○新校入学生と2・3年生（旧藤工生）が混在するので、きめ細かな生徒指導体制を確立する。

6. おわりに

昨今、工業高校の存在意義が問われる中で、大きな期待をよせられて藤沢工科高校（総合技術科）という一隻の船がようやく海に出たが、この船は万全ではなく、小さい穴があちこちに開いている状態であることは否めない。それを克服し航海を続けるには、ドッグに入り点検をし、補修または改良を重ねながら頑丈な船にしていく必要がある。簡単な作業ではないが、引き続き、全教職員の協力で魅力ある専門高校を目指していきたい。